



障がいがあっても 一人で稼げるように 挑戦し続けたい



① 昨年11月の三芳町福祉まつりで似顔絵コーナーを開いた時の様子。被り物が好きな智さん。② 猿の似顔絵まで書けます。③ 2011年、東日本大震災の被災者に向けたメッセージを送った。

をきっかけに、家族の絆が芽生えたといえます。「弟と会話なんて全然していませんでした。でも事故をきっかけに、家族一丸となり、右半身が不自由な弟にできることはないかと、家族で悩み、考えて手品やドラムなどに挑戦してきました」と話す姉の黒川由紀子さん(32)。その挑戦の一つに、由紀子さんが得意の「絵」がありました。

にがおえ兄弟 くろちゃんず結成

「5年前、リハビリも兼ねて私の得意な絵を描くことを弟に勧め、一緒に描きはじめました



写真：今まで描いた似顔絵を広げ、笑顔を見せる黒川智さん(左)と姉の由紀子さん。

た」。智さんが初めて書いた似顔絵は大好評でした。自分の絵で人が喜ぶ！ 事故後、忘れていた充実感を感じた智さん。それから、姉弟二人三脚で「にがおえ兄弟くろちゃんず」として全国各地で似顔絵を描くようになりました。人懐っこい笑顔と人柄は、智さんの魅力の一つ。絵を描いている間、話が大好きな智さんは積極的に世間話をしますが、由紀子さんは人見知り。時には話に夢中になり、「絵を描くことが疎かになる」ことも。バランスのとれた名コンビは、お客さんの笑顔をひきだします。「笑顔と人が喜ぶ姿を見るのが好きだから、絵を描き続けるんです」と言う智さん。テーブルの上に並べられた、今まで描いてきた作品を見ながら、「これは高崎のショッピングモールで描いた作品。この日はあまりお客さんが来なくてさびしかったなあ」など、一枚一枚に残された思い出を一生懸命、説明してくれました。

高次脳障がいの影響で、記憶を留めることが困難であるにも関わらず、その背景を説明できるのは、絵がもつ不思議なチカラなのかもしれません。

一人立ちが夢

「智が一人で似顔絵を描くことを仕事とし、稼げるようになるのが夢ですね」と智さんを見つめる由紀子さん。

反抗期には荒れ、家族の絆を忘れていた黒川さん一家。「昔のこととはよく覚えてないよ」と照れながら笑う、智さんが描く似顔絵の瞳の中には、必ずハートが描かれていました。



全国各地で似顔絵コーナーを開催。左手だけで絵を描くため、時間がかかる。その対応としてあらかじめ写真を撮っておき、完成後に渡すという形をとっている。一枚一枚に思い出が詰まっています。その時にどうい会話をしたのか、どういう人柄だったのかななどを鮮明に覚えている智さん。外に出て、いろいろな人と話すのが大好きだと言う。瞳に描かれたハートマークは智さんの似顔絵のトレードマークだ。

にがおえ兄弟「くろちゃんず」 事故で失ったものと 事故で得たもの

高校2年生の時、事故に遭い、右半身麻痺に。それでも諦めず、可能性を信じて挑戦を続ける姉弟がいます。



智さんの自画像。車いすの車輪は地球が描かれ、微笑んでいる。

高次脳障がいと右半身麻痺と失語症

事故前は、陸上部に所属。スポーツ万能でバイクが大好き。あと1回の教習で、大型バイクの免許取得ができると期待に胸膨らませていた矢先、事故に遭いました。高次脳障がいと患い、右半身麻痺、失語症といった後遺症が残りました。

当時、智さんは反抗期。家族がバラバラでしたが、この事故

大 粒の雨が、アスファルトを打ちつけ、視界が最悪だった13年前の9月のある日の深夜。事故に遭い頭部を強打し、救急搬送されましたが昏睡状態に。意識を取り戻したとき、右半身の感覚がなくなっていました。藤久保在住の黒川智さん(30)が17歳の時の出来事です。

高校2年生時の黒川智さん。この当時の写真をあまり撮っていなかったという。

陶芸&にがおえ展

初めての陶芸&にがおえ展。土・日は似顔絵コーナー(有料)も開催します。

会場：陶芸倶楽部&ギャラリー 輝 / 埼玉県富士見市ふじみの西1-17-8 B1F
期間：3月1日(火)～13日(日)
月・金定休 10:00～16:30
☎ 049-269-4419

アメブロ公開中

活動を Ameba ブログで公開中。今後のイベント予定や、これまでの作品なども見ることができます。

最新情報をブログで随時公開中！

似顔絵兄弟くろちゃんず 検索